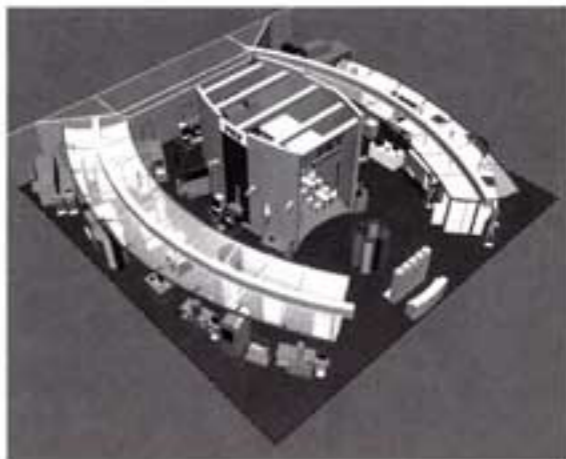


YKT

ロロマチック中心に工具研削を総合プロデュース

YKT流トータルソリューション拡大

工作機械専門輸入商社YKTはJIMTOF2008に、新規に扱い始めたメーカー4社を含む16社の機械・周辺機器を展示する。東館・西館それぞれにブースを出す。東館では天井から自社ロゴのパナールを吊るし、来場者に広くアピールする計画だという。



YKTの商材に新しくラインナップされたのは、スイスからアフオルター社とマグネットフイニッシュ社。ドイツからエタロン社とGFMC社。目玉の一つが、アフオルター社のCNC高精度マイクロギアホブ盤。本来、時計部品用に開発されたもので、機械自体の重量1・2トンと非常に軽量。最近様々なモータの小型化が進んでいる中、ギアボックス内のギアの加工に最適と見られる。

その中でもインデックス社は欧州で7割のシェアを持つ老舗で、ハイスカップリングを世界で初めて採用したり、カーのドクター・ミュラー社、研削液の超精密濾過装置のケンフイルト社、加工後の異形ワークの品質を保障する。提案の中心となるのは、ロロマチック社の成形システムでは、新たに、工具製のキルナー作のトータルソリューションの提案が追加される。

国内にはない機械が多数

アフオルター社製マイクロギアホブ盤
インデックス社製CNC6軸自動盤など

各主軸がそれぞれ独立して回転制御可能にしたりと、業界を牽引してきた。サンプルワーク【写真】のようなものであれば単軸自動盤の6、10倍のスピードで加工が可能だという。



また、インデックス社のCNC6軸自動盤「MS2 2Clea n」も展示予定。多軸の自動盤は国内メーカーほとんどが撤退している。海外メーカーがしのぎを削っている。

世界各地のメーカーの工作機械・周辺装置を組み合わせた、ユーザーが行いたい加工内容に即した設備の紹介からアフターサービスまでを一手に引き受けるトータルソリューション提供が最大の長所。代表例としては、前回のJIMTOFでも注目を

浴びた、精密加工であるかというノウハウも合わせてユーザー研削盤に関連したものが挙げられる。精密成形研削盤のカーリング・ユング社を中心に、砥石成形システムでは、新たに、工具製のキルナー作のトータルソリューションの提案が追加される。



アフオルター社
マイクロギアホブ盤

できるOGP社の非接触式3次元測定機と、IMTOFで初公開となるCNC高精度小径工具研削盤「nano 6」。「nano 6」は加工径が0・01mmとφ2・0mmという極小径工具研削に特化した研削盤。切削工具用で、新たにドイツ・G

径が10μm代の小径ドリルを作るには、ダイヤモンド砥石の成形が肝となっているが、ロロマチック社のCNC6軸砥石ドレッシングシステム「Profile Smart」が好評だという。工具メーカー自らが開発しているのが強みとなっている。

ブランク製作には、同じくロロマチック社の円筒研削盤「Shape Smart NP4」が対応する。

切削工具、特に小径工具では、切り刃面のエッジが立ちすぎていくとチップングが起これば、工具の長寿命化を図り、研削後に刃先にRホーニング加工（刃先を丸める加工）を行うケースが多い。

YKTにはこれまで、ドイツのワルサートロバル社の刃先ホーニングマシン「MF61」「MF71」をラインナップ。砥石を使わずに磁性パウダーを用いて磨く方式で、0・2mm、6・0ミリメートルまでの小径工具の刃先R加工が可能。YKTでは、大・中径工具はワルサートロバルで、小径工具はマグネットフイニッシュでの加工を勧め

ている。

刃先についたR形状はもろ肉眼で見えるレベルのものではない。工具径が小さくなれば、ますます形状の保証を行うのは難しくなり、高精細な測定器が必要となる。こうした体制を整えるのは、YKTのトータルソリューションの真骨頂といえる。だが、これらは、YKTブースで見られる機械群のほんの一部に過ぎない。この他にもいくつもの商品が展示される。